

黒大豆「“独自”の栽培あれこれ」

高い^{うね}畝をつくる“独自”の農機具 「うねたてき」

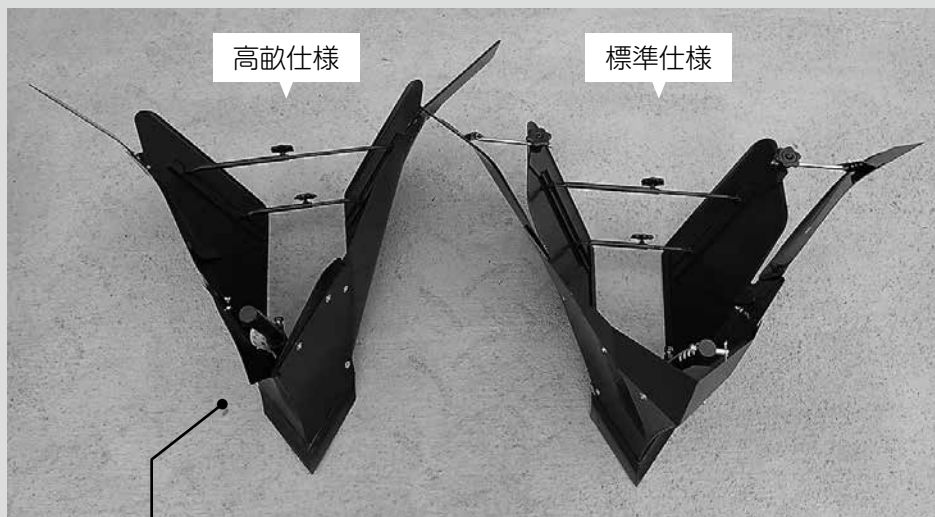
これまでの日本農業遺産の連載記事では、認定された内容について市民の皆さんに広く知ってもらうことを目的に掲載してきました。

令和4年度は、日本農業遺産に関連した市民の皆さんからの疑問や関心に答えたり、生産組合や農家の皆さんらの取り組みについて焦点を当てたりと、「市民参画」を目的にします。

さて、丹波篠山の黒大豆栽培は高い畝がとて大きな特徴です。実は、丹波篠山にしかない特別仕様の「畝立て機」があるのをご存じでしょうか。

高い畝は、トラクターの後部に装着するV字型の畝立て機で作ります。篠山盆地は粘土質の土壌が多く、他の地域と比べて農地の表土が深い特徴があります。そのため、農家や農機具メーカーなどが協力して、土をより高く確実に盛り上げ、排水性が高まるよう、通常機と比べてV字の切り込みを大きくした“高畝仕様”が開発されました。

畝づくりへのこだわりと技術によってうまれる高い畝は、伝統^{あかし}の証であり、農都・丹波篠山の誇りなのです。



高畝仕様は全長が長く、V字の形状が異なる。

畝立て機はトラクターのロータリーのさらに後部に装着



丹波篠山の黒大豆栽培・300年の歴史
日本農業遺産認定